

〈学術研究集会傍聴記〉

第75回日本体力医学会大会傍聴記

井上 美佳*

Mika INOUE*

2020年9月24日から26日までの3日間にわたり「第75回日本体力医学会大会(鹿児島大会)」が「チェストいけ!日本体力医学会-健康長寿を支える体力医学の未来-」というスローガンのもとに開催された。昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、急遽Webによる学会に切り替えられた。一般演題発表は全てWeb上にてポスター形式で、教育講演やシンポジウム等は全て誌上で発表が行われた。

私は、筆頭著者として「大腿直筋の近位部・中間部・遠位部における膝関節伸展運動後の筋硬度変化(Change in muscle hardness in the proximal, middle and distal part of human rectus femoris after maximal knee extension exercise)」という演題で発表を行った。今回発表した研究は二関節筋の1つである大腿直筋に着目し、膝関節伸展運動後の筋硬度変化に筋内部位差がみられるかを検討した。一般発表演題において、前年度の同大会では大腿直筋やハムストリング等を対象に筋内部位別の筋活動や筋stiffnessを調査した研究が散見され、近年関心の高まっているトピックであることが考えられた。今大会は全体の発表演題数が少なかったこともあり、このようなトピックで発表した研究はみられなかったが、発表後には数名からメールでご質問をいただくことができた。なかでも日本において同様のトピッ

クを扱う先生からご質問やご意見をいただくことができたことは、自身を知っていただく良いきっかけとなり、今後の研究に生かせる有意義な場となったように思う。

一方で、発表後にご意見をいただく中で、これから進めようと考えていた研究と類似した内容が既に進められていることを知り、同じトピックを扱う研究者の中で乗り遅れているという危機感を感じた。未発表であるだけで、他にも同じトピックを扱う研究者も多く存在するだろう。そのような状況下で世の中に有益な情報を発信していくためには、同様のトピックを扱う研究者が取り組んで行くだらう研究の方向性を見据え、その先を行く視点や着眼するに至っていない別の視点を持てるようになる必要があると改めて感じた。

このように今回の学会で得られた収穫は大きく、有意義なものであった。しかしながら、本学会に参加して危機感を抱いたのも事実である。頂いたご質問やご意見を基に、一層今後の研究活動に励んでいきたい。

なお本大会には、2020年度学内共同研究費(研究課題名「運動後の筋硬度変化に着目した大腿直筋の特性の探索」)の一部を用いて参加させて頂きました。

* 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 博士後期課程1年
Graduate School of Health and Sports Science,
Juntendo University